



宝木地区公民館だより

7月26日（日） 宝木っ子まつり
子どもたちの力作、砂像群です。

みんなで盛り上げよう
文化祭を

公民館長 吉田 亨

四月早々宝木地区運営委員会で昨年度の事業報告、二十一年度の運営計画が承認されスタートしました。

鳥取市の委託事業、各専門部（文化・健康・青少年・女性・広報）事業も地域の皆さまの協力をいただきながら計画どおり実施しています。

中でも、親子ふれあい事業である、今年の二月より始まった「こわれたおもちゃを修理する」「宝木のおもちゃ病院」は、修理され直った瞬間の笑顔を見ると、物を大切に作る気持ち、親子の絆が深まるのではないかと感じさせられています。

地域外からの持ち込みもあり大変よろこばれています。「まちづくり協議会」「コミネット宝木」と公民館との始めての共催事業である、「宝木っ子まつり」では「綱引き」と「砂

像づくり」に、子供から大人まで多くの人が参加していただきました。

家族、子供、大人同士の親睦、世代間を越えた交流が図られたひと時でした。

「砂像」は貝殻節祭りに開催される花火大会のお客さまに見ていただくように管理し、当日はライトアップし見ていただきました。

翌日の、貝殻節の総踊では“コミネット宝木”が参加し最優秀に輝きました。来年も更に多くの皆様に参加いただき、宝木のまちづくりに参画いただけたらと願っています。

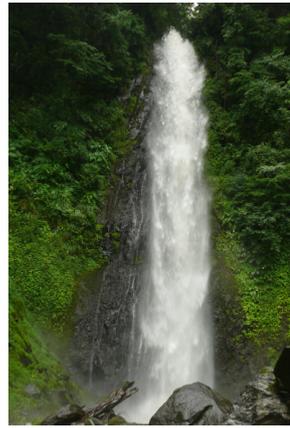
十月二十四・二十五日に予定されている文化祭は、今年より学校側の強い要望で公民館独自で開催する運びとなりました。

活気あふれる多くの皆様に参加していただけるホットな文化祭にしてゆきたいとおもっています。

地域の皆さまのアイデア・ご支援・協力を宜しく願います。

文化部事業
「滝めぐりと万葉のふるさとを訪ねる」に参加して

松本 みのり



朝から雨：滝のような雨。まさしく今日の行き先は「雨滝」バスの中でも、そのダジャレでもちきりでした。

でも滝はすばらしかった。梅雨の雨を集めて飛び出すように落ちてきます。

その水量、音量は体全体に響いて来ました。



雨滝の後、扇の里交流館へ向かう道すがら、バスの両側には小さな棚田が美しく手入れされていて、土地を愛する心に感動を覚えました。扇の里交流館で「扇の里まんま弁当」を頂きながら、「限界地域」と言われ

る上地(わじ)地区での活動の様を聞きました。

山菜を中心としたおもてなし弁当を作り、自然の豊かさを生かした催し、さらには後継者不足を補うボランティアの手配、そして何よりも元気なリーダーと人々の信頼関係。

山の中の不便な村で何ができるか、老若男女が知恵を出し、それぞれの力を出し合って、今出来ることを行動に移しておられました。

一人一人の力は小さくても集まれば大きな力となり、じげの特徴・特技を生かし、仲間の和を計って活き活きと活動されている姿は、頼もしくも、うらやましくもありました。

宝木地区にも「コネット宝木」の活動で明るい未来が見えるといいですね。



青少年育成部
鷲峰登山に参加して

松尾 健治



河内に着き、河内川を丸木橋で渡ると、鷲峰山への登山開始だ。子供達は注意事項もそこそこ聞き出発してしまっただ。林道へ入り、しばらく行くと左に堰堤が見え、本格的な登山道となる。

先頭に行く子供達の姿が見えなくなり、離れ過ぎて危険なので、登山経験豊富な福井さんに子供達を追って先行してもらった。

しばらくたってから福井さんと連絡が取れ、子供達を急な階段の途中で止めているという連絡が入った。我々も急ぎ出発した。

間もなく急な階段が現れ、標高を一気に100m上げる一番つらい場所に着いた。どこも登山道整備は階段にしてしまい、歩き辛い道になっ

ている。

この辺りからブナの木と変わって来た。階段を登り切った所が標高712mのピークだ。尾根が緩い下りとなり少しくとまた階段となり登り切ると804mの道標のある登山道と続く。

霧が濃くなり、ブナの木が幻想的な雰囲気を出したころ、上のほうから人声が聞こえ、頂上へ着いた。霧の中にたくさん登る者だ。あいさつを交わし昼食をとった。記念撮影後、下山にかかる。子供達は走るように降りてしまった。

我々は足が、膝が笑う。休みながらゆっくりと下山する。河内に到着し見上げると山頂には雲がかかっていた。よい汗をかいた一日でした。



